

履修する学位コースについて

(博士前期(修士)および後期(博士)課程)

名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻では、修了により学位(看護学, 医療技術学, リハビリテーション療法学のいずれか)が付与されます(博士前期および後期課程でそれぞれ修士および博士)。各学位を取得するための各学位コースでは、対象とする研究の領域や履修科目の組み合わせが異なります。大学院生はいずれかの学位コースを履修しつつ指導教員のもとで各学位に相応しい研究を行います。

【看護学コース】

日本の高齢化は急速に進み、すでに人口減少の時代に突入して人口構造の変化は著しい。医学医療が進歩し医療情報が高度化する一方、生活の質の向上を目指した患者家族中心のケアに対するニーズは高まっている。地域包括ケアシステムの構築・推進とともに、看護の役割拡大も大きな課題である。多様化する保健医療の要請に応えるため、看護学としてのケアシステムや看護技術の開発、看護手法の科学的追究など、世界をリードする科学的根拠のある看護学の発展にむけた研究・教育の推進が求められている。看護学コースでは、現在の高度化する医療に対応し、高い倫理観を有し包括的な患者家族支援を展開できる看護専門職のリーダー／変革者となる人材、多様化する保健医療において新しい看護学の創造に挑戦する研究・教育者の育成を目的とする。

看護学コースでは、看護システム・ケア開発学(①卓越した看護アセスメント技術開発、②科学的・理論的根拠に基づく看護ケア技術の開発・検証、③看護ケアの構成要素や構造の解明とシステムへの導入過程の検証等)、高度実践看護開発学(①卓越した高度がん看護専門職の機能とシステム開発に寄与する課題、②周手術期・急性期・救急場面及びクリティカル状態にある患者の生命・生活と家族を支える援助方法に関する課題、③慢性的な健康障害をもつ人々及び治癒困難な状況にある人々と家族に対する実践的な援助方法を開発する課題、④精神・心理的な健康障害をもつ人々と家族に対する地域包括的な看護を提供するための課題等)、次世代育成看護学(①子どもと家族の発達を支援する効果的な小児看護の役割モデルやケアシステムの開発に関する課題、②性と生殖にかかわる保健・周産期家族の健康管理・母子/父子関係成立に関する援助に関する課題、③健やかな子どもを生ま育てるためのライフサイクル全般にわたる予防的看護支援モデルの開発等)、地域包括ケア開発看護学(①住民や特定集団を対象としたヘルスプロモーションにおける課題、②主に成人・老年期における生活習慣病予防を中心とした支援方法や事業評価指標の開発、③地域特性をとらえた包括的な看護モデル、ケアシステムの開発等)について、以下の教員構成により指導します。

【医療技術学コース】

近年の医療技術，医療機器の進歩は著しく，これらを活用した診断技術，病態解析技術，治療技術の高度化も顕著である。そして，遺伝子医療や移植・再生医療，人工臓器などの医療の革新的変化に対応する医療技術学面での新たな研究開発の重要性が益々増大している。医療技術学コースでは，これら医療の高度化をさらに推進する生体情報取得技術，診断技術，病態解析技術，治療技術などのライフイノベーションに繋がる専門技術の研究開発を目指す。また，医療技術人材の教育・育成においては，高度化する医療技術を医療現場で創造的に活用できる指導的な高度専門職業人の育成を図るとともに，先端医学医療に繋がる医療技術学分野の研究を推進する研究・教育者の育成を図る。2019年4月から，医用量子科学分野に医学物理士コースを開設した。

（医用量子科学分野）

医療技術学コース医用量子科学分野では，放射線，磁気，超音波などの媒体を用いて，生体情報を得るための基礎研究とその手法の開発を行い，それらの情報を有効且つ安全に用いるための診断支援システムやネットワークシステム，治療技術，放射線被ばく制御技術などの開発研究を行っています。また，本分野の教育領域としては，放射線や放射性同位体の物理学，化学，計測学の基礎から応用までに加えて，医用画像情報学，画像診断技術学，核医学検査技術学，放射線治療技術学，放射線安全管理技術学等が主体となります。これらの教育を通し，既存の知識に加え，新しい発想でシステムの開発を目指し，世界的な研究の一翼を担うことのできる研究者，広い見地から医療を見渡せる医療施設のリーダー及び高度な知識と技術を有する教育者の育成に努めています。

（病態解析学分野）

病態解析学分野の研究は，正常状態・病的状態の生体の諸現象を様々な検査手法を駆使して解析し生体機能及び各種病態の解明に資すること，並びに最新の基礎医科学研究の成果を取り入れ診療および疾病予防に有用な生体情報を得るための新たな技術を開発し応用することを目的とする。そのために，免疫学，微生物学，分析化学，生理学，血液学，病理学，疫学など様々な専門分野の研究者が，情報・オミックス科学を取り入れた先端的な研究を進めるとともに，従来の学問の枠組みを越えた学際的な病態解析，検査技術開発の開発を目指します。これらの研究を通じた教育活動から先端医学につながるオミックス医療科学研究を遂行する能力をもつ研究者の育成，及び指導者・教育者としての高度な専門知識・技術を有する人材の育成を図ります。

【リハビリテーション療法学コース】

リハビリテーション療法学（理学療法学及び作業療法学）は、従来の身体機能回復のみならず、疾患・外傷の初期段階から治療と機能回復、社会復帰を含めた、疾病管理・生活支援により患者家族の生活の質の向上を目指す総合医療分野として認識されてきている。近年では高齢社会の進展で、高齢者への早期からの予防的な疾病管理・生活援助を含めたリハビリテーション療法の確立も求められるなど、リハビリテーション療法の適用範囲は増大している。リハビリテーション療法学では、現代の高齢社会の中で患者家族の疾病管理・生活支援を推進するリハビリテーション療法を開発推進する高度の専門知識を有する指導的・高度医療専門職の育成を図るとともに、新しいリハビリテーション療法学の分野を開拓創造する研究・教育者の育成を図ることを目的とする。

（理学療法学分野）

理学療法学は、身体組織および機能の障害、あるいは能力低下を持ちながらも、質の高い人生を送るために不可欠なリハビリテーション医療に関する研究推進ならびに高度専門教育を行います。そのために、障害の原因となる病態や機能障害の発生機序を生理学的に解明する基礎研究とともに、障害の効果的回復や機能維持、更には疾病・障害の再発予防に関する臨床研究を積極的に推進し、質の高い理学療法の実践を創造する。また学内他分野や他コースはもとより、他大学ならびに海外の学術・研究チームと積極的に交流し、国際的水準で研究推進ならびに後進の指導を行い得る人材の育成に努めます。

（作業療法学分野）

作業療法学分野は、人の身体、精神、成長発達および老化に関するほとんど全ての機能障害とその病態を対象とする研究・教育を行う。そして、様々な機能障害に対する作業療法介入の効果、能力や障害の評価、あるいは生活支援や社会適応の開発など、特化した視点から見た高度な作業療法学の研究と教育を目指す。同時に本分野は、作業療法の対象となる身体的および精神的疾患に関わる基礎的研究と創造的開発を推進し、指導的な立場で国内外の研究、学際的な研究に携わり、高度な専門知識と技術をもって後進の教育を行うことのできる人材の育成に努めます。